

熊本県災害リハビリテーション推進協議会 設立趣意書

【趣旨】

2011年3月11日の東日本大震災による被災の影響は未だ現在進行形であり、復興にはまだまだ程遠いと言わざるを得ない現状が続いています。

今回の災害は阪神淡路大震災時とは大きく異なり、大地震に引き続き起こった大津波によって多数の尊い生命が奪われ、広範な地域の生活の場が瞬時に崩壊しました。更に、震災後の避難所・仮設住宅生活において、多くの高齢者の不健康状態や種々の疾病の悪化、いわゆる不活発病が今なお大きな問題となっているところです。熊本県におきましても、2012年7月の九州北部豪雨により、多くの方々が避難を余儀なくされ、生活に支障をきたされたのは記憶に新しいところです。

このような経験から、今後の大規模災害時における支援活動には救命救助のみならず、それに引き続くリハビリテーションの立場からの生活支援等が非常に重要であることが浮き彫りになりました。そこで、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT：旧東日本大震災リハビリテーション支援関連団体協議会（2011年4月結成）：日本リハビリテーション病院・施設協会、日本リハビリテーション医学会、回復期リハビリテーション病棟協会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会、日本訪問リハビリテーション協会、全国デイケア協会、日本介護支援専門員協会、全国地域リハビリテーション研究会・全国地域リハビリテーション支援事業協議会、日本義肢装具士協会、日本義肢装具学会）では、全国規模で災害リハビリテーションコーディネーター養成研修を行い、災害リハビリテーションに関するネットワークの構築およびDMAT（災害派遣医療チーム）と連動した活動が可能な災害リハビリテーション支援チームを育成して、不測の大災害に備えていくこととなりました。

熊本県におきましても、これら全国規模の動きに連動し、大規模災害時にDMAT・JMAT（日本医師会災害医療チーム）等との連携の下で適時適切に支援活動に参加できるような素地づくり（ネットワーク構築、研修会実施、教育・啓発など）を行うために、熊本県地域リハビリテーション支援協議会、熊本市リハビリテーション研究会、熊本県医師会、熊本県理学療法士協会、熊本県作業療法士会、熊本県言語聴覚士会、熊本県老人施設協会、熊本県介護支援専門員協会、日本義肢協会九州支部、日本義肢装具士協会南日本支部、熊本県回復期リハビリテーション病棟研究会、回復・維持期リハを考える会等が一堂に会し、熊本県災害リハビリテーション推進協議会を結成することと致しました。

関係各位におかれましては、この趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

発起人	水田 博志	熊本リハビリテーション研究会会長
	(代表)	熊本大学大学院生命科学研究部整形外科分野教授
	北里 堅二	熊本県理学療法士協会会長
	島崎 一也	熊本県作業療法士会会長
	山本 恵仙	熊本県言語聴覚士会会長

林	邦雄	熊本県医師会理事（地域リハビリテーション担当）
西	芳徳	熊本県医師会理事（救急災害担当）
山田	和彦	熊本県老人保健施設協会会長
加来	留	熊本県介護支援専門員協会理事長
徳田	章三	日本義肢協会九州支部長
小峯	敏文	日本義肢装具士協会南日本支部代表
田代	桂一	熊本県回復期リハビリテーション病棟研究会代表世話人
古閑	博明	回復・維持期リハを考える会代表世話人
渡邊	進	回復期リハビリテーション病棟協会理事
平田	好文	日本リハビリテーション病院・施設協会理事
山鹿	眞紀夫	日本リハビリテーション病院・施設協会常務理事